

Moving Plants

渡邊耕一

Watanabe Koichi

Seigensha



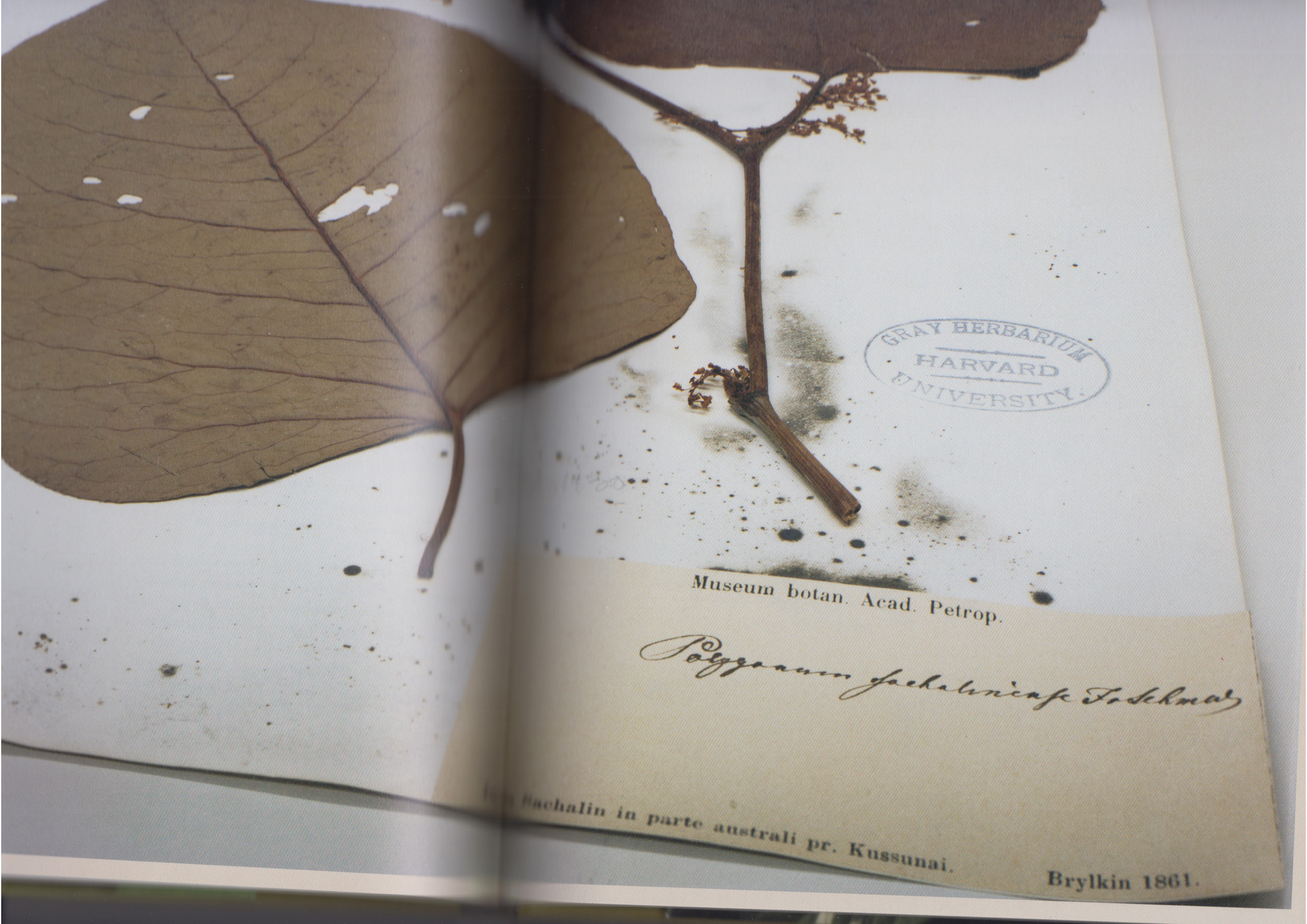
キングストン、ロンドン 201
Kingston, Lond



カトヴィツェ、シレジア 2006年
Katowice, Silesia



メイプルクレスト、ニューヨーク州 2007年
Maplecrest, New York



GRAY HERBARIUM
HARVARD
UNIVERSITY.
Museum botan. Acad. Petrop.
Sachalin in parte australi pr. Kussunai.
Brylkin 1861.

の跡を訪ねてい
たジャングルと
茂していた*50。

のヨーロッパ導
た株は、1859年
沿海州調査時に
植物園に運ばれ
イギリスの園芸
タログに現れた
ス。現在の価値

にして600円程度である。19世紀の終わり頃には、日本の横浜植木商会*51が自社の西洋向け販売カタログにオオイタドリを載せている。ブロンクスにあるニューヨーク植物園の図書館に所蔵されていたそのカタログを見ると、オオイタドリの売価は根1000個につき40円。現在の貨幣価値では、10個で約8000円というところだろう。

1850年8月9日フォン・シーボルト商会からキュー王立植物園に日本の植物群が届けられた。その中にイタドリが含まれていたことが、キュー王立植物園のアーカイブに残る記録の植物リストから読み取れる。キュー王立植物園は



横浜植木商会(ベーマー商会) 1900-1901のカタログより


ロスリー、レスターシャー、イギリス 2010年
Rothley, Leicestershire, the United Kingdum

この苗を増やし、国内の園芸業者にも分配した。このイタドリは雌株のみだったため、ブリテン島のイタドリはほとんどこの時に移入したイタドリのクローンであるという*52。ヴィクトリア期に富を築いた多くの人々が自分の邸宅に大規模な庭園を作った。この時代の園芸家で最も影響力が大きかったウィリアム・ロビンソン*53は、1870年に *The Wild Garden* を出版、その中で耐寒性多年草の庭園利用を薦めており、「もしイタドリを林の縁などに導入すれば、そこはとても楽しげな場所になるだろう」と記している。著名な園芸家ガートルード・ジェキル*54もイタドリについて著書に記している。園芸誌カーティス・ボタニカルマガジン*55や園芸週刊誌ガーデナーズ・クロニクル*56にはイタドリの記事が書かれ、読者からの標本同定依頼の回答欄には繰り返しイタドリが登場する。イザベラ・バード*57は、1880年に出版した『日本奥地紀行』の中で、明治11年8月23日、北海道サルフトから平取に向かう森の中の道で *Polygonum cuspidatum* を発見したことを記録している。ヴィクトリア期のイギリス人たちはイタドリを雑草以上の存在として認識していたのだ。

20世紀に入り、アメリカやドイツの経済が拡大するにつれて、イギリスの経済的優位性は低下した。それに伴って

イタドリが植えられていた庭園の所有者たちも没落していく。多くの庭園が放棄され、跡地ではイタドリが繁栄する。庭園の解体により土壌があちこちに運ばれ、その土壌に含まれていたイタドリの根や茎の一部から新たな繁殖地が生まれた。それを防ぐため、現在イギリスでは環境保護法(1990年)によりイタドリを含む土壌の運搬は禁止されている。イタドリの存在が確認された不動産は販売できないため、イタドリの除去が必要だ。イタドリ防除はひとつの産業を形成している。2014年、イギリス内務省は、イタドリを導入する行為を反社会的行為として罰金を科す可能性を示唆するガイドラインを作成した*58。これにより、イタドリ防除の更なる産業化が進むだろう。


カーティス・ボタニカル・マガジン 1880年



ド州、オランダ 2009年
ction, North Holland



ド州、オランダ 2009年
ction, North Holland

オランダ北ホランド州アールスメール。スキポール空港から車で20分程走ると、世界最大の花市場がある。99万平方メートルの面積のある建物内で毎日早朝に競りが行われ、2000万本もの花や鉢物がスキポール空港から世界中に出荷される。花の生育に必要なものは適切な温度と光であり、それらを賄うために資本が投入される。ケニアなどの東アフリカ諸国やイスラエルは、その豊富な太陽光によって花の生産コストを低くすることに成功した。冷涼な北ヨーロッパは、必要な熱量を確保するための燃料費などの経費増加にさらされる。その結果新しく参入したこれらの国々からの花がアールスメールに集まり、欧米の小売市場へと出荷されるようになった。アフリカ諸国の参入により、ヨーロッパは東アジアへの貿易拡張を図り、オランダの生産者は東アジアでの花生産も始めている*64。彼らは中国・雲南省にアールスメールとほぼ同じ市場システムを導入し、花を輸出している。アールスメール花市場は20世紀初頭この地域の花き生産者が花価格の不透明な操作を防ぐために設立したのが始まりだが、現在は世界の花貿易のハブとして機能している。花を巡る地勢図は常にダイナミックに変化しているのだ。

かつて熱帯の水蒸気に満ちた大気の中を何ヶ月もの長い時間をかけて運ばれた植物は、現在は数時間で世界中の花屋に届く。世界中に散らばっていた植物園ネットワークを駆使した植物の取引から現在の取引形態への変化は、帆船から飛行機へという、物流システムの見かけ上の変化をそのまま反映している。しかし、形態がどんなに変化してもその本質は変わる事がない。



アールスメール花市場、北ホランド州、オランダ 2009年
Aalsmeer Flower Auction, North Holland



アールスメール花市場、北ホランド州、オランダ 2009年
Aalsmeer Flower Auction, North Holland